

第1学年「図画工作」学習指導案

授業者 宮川 紗織

2月21日（土） 2階アトリエ 9:00～9:40

1 単元名 ともに やってみる

2 単元について

本学年の子どもたちは、5月から図画工作の授業を開始した。それまではまず学校生活に慣れるための時間として、学級や学年の時間とした。入学してから少し経った4月中旬、好きな色画用紙を棚から自由に取り、段ボールに貼り付けている子どもたちの姿があった。思い思いにイメージを形にしていくなかで、とてもエネルギーに溢れていた。その時少し違和感を感じたことは、棚から出したけれど使わなかった色画用紙が床に落ちたまま、子どもたちの足跡が複数残っていたことである。そのことから、1つのものとの出会いを大切に、ものに向き合う姿勢を育むことも大切であると考えた。そこで最初の授業では、まず今日のパートナーとしてお気に入りのお花紙1枚を選び、その1枚だけを大切にしながら活動した。

また、同じものでも関わり方が違えば、あらわれてくるもの（作品）も異なるという発見を積み重ねて欲しいという願いから、1学期から今までに同じ材料を使って、違う活動内容の授業を継続的に行ってきた。2学期には、校庭で摘んだ葉でフロタージュや絵の具をつけてスタンプ（図1）をしたり、大学キャンパスに秋の実を見つけに行ったり、その後乾燥した落ち葉を小さくちぎって粉にする活動（図2）を行った。スタンプでは、絵の具をはじいてしまう葉を見つけたり、上手く葉脈の跡が出なかったのは何故だろうと疑問に思ったりする子がいた。また、落ち葉は拾ったときと時間が経ったときでは、触ったときの質感や音が違うこと、粉にするとより一層匂いが立つことに気づいていた。そして、自然と周囲の友達とそれぞれの気づきや違いを共有している姿があった。これは子ども自身の実体験を伴った、身体で対象を分かっているという学びであるといえるだろう。



図1 「はっぱスタンプ」



図2 「こなこなはっぱ」

このような1年生の姿から、違う種類の木・木材と出会い、木そのものが持つ温もりや匂い、重さや色を感じて味わって欲しいと願い本題材を設定した。最初の出会いは、数種類の木材をファミリーごとに用意し、匂いを嗅いだり、木目を観察したり、音を確認したり、積み木をしたりする姿が予想される。その後、番の違う紙やすりで木材を削り、木の種類や紙やすりの種類によって木粉にどのような違いがあるかクラスで共有する。できた木粉は種類ごとに容器に入れ保管しておく。本時では、時間が経過することによって木材や木粉の色や匂いが変わるのか、前時にできた木粉と比べてみる。そして形が変わった木片と木粉を机と同じ大きさにした黒い画用紙に置いたり、並べたり、貼ったりして作品にあらわす。ともに木片を削ってみた結果、どんな関わり合いが生まれ、木片や木粉はどのようなものに形が変わっていくのかみとりたい。

3 学習指導計画（3時間目／全4時間）

- | | |
|-------------------------------------|----------|
| 第1次 木片と出会い、重さや色、手触りなどを感じる | …1時間 |
| 第2次 木片を削り、形や匂いの変化や色の違いを味わいながら、作品を作る | …本時2/2時間 |
| 第3次 作品を鑑賞し、語り合う | …1時間 |

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

- 木片や木粉の特徴を味わいながら、作品にあらわすことを楽しむ。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 木片を紙やすりで削ることや木粉を集めることを楽しむ。 同じ木片からできた木粉でも前回と今回で違いがあるか、自分と友達の違いはあるか確認する。	・保存容器に違う種類の木粉が混ざらないようにする。 ・やすりで指や手を怪我しないように気をつける。
2. 削った木片と木粉を使って作品にあらわす。	・違う種類の木粉を混ぜる用の容器を用意する。 ・ボンドタッチを人数分用意する。